

農推第1149-4号
令和元年7月22日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生・防除情報メールサービス（7月）

大阪府内の7月の病害虫発生状況と今後1か月の防除対策についてお知らせします。
例年、梅雨明け後からハダニ類などの害虫が増加しますので初期防除に努めましょう。
高温時の薬剤散布は薬害を起こしやすいので、散布は早朝など涼しい時間帯に行ってください。
6月から8月は農薬危害防止運動月間です。農薬の安全かつ適正な使用を徹底し、農薬の使用に伴う事故・被害を防止しましょう。
夏休みに入るとほ場周辺で遊ぶ子供も増えますので、農薬散布時は、いつも以上に気をつけましょう。
蒸し暑い日が続く時期です。作業時に熱中症にならないよう十分ご注意ください。

- 各病害虫の発生状況は、巡回調査や植物防疫協力員の報告等をもとに作成しています。
- 各病害虫の詳細や、農薬を使用しない防除方法等は、下記ホームページの「防除指針」を参照してください。

◎「病害虫防除グループホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>◎「防除指針」 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/shishin/shishin.html>◎「大阪府暑さ対策情報ポータルサイト」 <http://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/jigyotoppage/atsusataisaku.html>▲病害虫防除グループ
ホームページ

▲防除指針



▲大阪府暑さ対策情報ポータルサイト

※農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルを確認してください。

目次

1 水稻	P. 1
2 果樹(ぶどう、いちじく、みかん、果樹類全般、バラ科果樹)	P. 2～5
3 野菜(なす)	P. 6
4 野菜類・花き類	P. 7～9
5 きく	P. 10

水稲

7月前半の病害虫発生状況

品目 \ 程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲		いもち病 縞葉枯病 ヒメトビウンカ			
	ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ) 発生に注意				

いもち病



葉いもち

特徴

- ◆多湿で日照不足の時に発生しやすく、降雨、窒素過多、過繁茂などの場合に助長される。

防除のポイント

- ◆補植用の苗が発生源になることが多いので、早めに処分する。
- ◆いもち病の常発ほ場で箱施用剤を使用しない場合は、発病前にオリゼメート粒剤、フジワン粒剤、コラトップ粒剤5などを散布する。
- ◆発生を認めたらブラシンフロアブルなどを散布する。

縞葉枯病、ヒメトビウンカ



縞葉枯病発病株



ヒメトビウンカ※

特徴

- ◆縞葉枯病は、ヒメトビウンカにより媒介される。

防除のポイント

- ◆発生を確認した場合はアプロード水和剤、スタークル(アルバリン)粒剤等で防除する。

スクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)



成貝



卵塊

防除のポイント

- ◆田植え後約20日経過後は、新たな被害は出にくいですが、貝の密度を低くするためにピンク色の卵塊を発見した場合は水中に掻き落とす。

詳しい生態や防除方法については、ホームページに掲載しているカラー技術資料「ジャンボタニシ(スクミリンゴガイ)から稲を守りましょう!」を参照してください。

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/color.html>



※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所
*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)

果樹

7月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				晩腐病		
					べと病	
いちじく				疫病		
みかん				黒点病		
				ミカンハダニ		
果樹類全般			果樹カメムシ類			
バラ科果樹	クビアカツヤカミキリ 発生に注意					

ぶどう

晩腐病



被害果実※

特徴

- ◆糖度が高くなった収穫間際の果実で発生する。
- ◆新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。特に露地デラウェアで発病が多い。

防除のポイント

- ◆袋かけや笠かけを行う。
- ◆適切な換気やマルチングを行い、湿度を下げるようにする。
- ◆昨年度発生があったところでは**オンリーワンフロアブル**、**フルーツセイバー**、**ファンタジスタ顆粒水和剤**などを予防的に散布する。

べと病



特徴

- ◆雨が続くとまん延しやすい。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、収穫前日数に注意して、降雨前に**エトフィンフロアブル**、**レーバスフロアブル**などを散布する。
- ◆発病した葉、果房などは除去し、園外に持ち出すなどして処分する。
- ◆農薬を散布する際は、薬害や果実の汚れを避けるため、傘・袋かけ後は棚上散布を行う。
- ◆発生園地では、収穫後にもICボルドーなどで防除を行う。

7月19日付で防除情報「露地ぶどう べと病に注意！」を発表しました。
 詳細はホームページを参照して下さい。 <http://www.jppn.ne.jp/osaka/>



いちじく

疫病



疫病※

特徴

- ◆雨が続くと発生しやすい。

防除のポイント

- ◆雨水の跳ね上がりなどで伝染するので、敷きわらやマルチングを行う。
- ◆傘かけ資材を設置する。
- ◆ランマンフロアブル、レーバスフロアブル等を散布して防除する。

みかん

黒点病



特徴

- ◆降雨が多くなると発生が増加する。

防除のポイント

- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤、ファンタジスタ顆粒水和剤などを散布する。
- ◆ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤を使用する場合は、皮膚のかぶれに注意する。また、かんきつ（みかんを除く）では3剤とも使用時期が収穫90日前までなので注意する。

ミカンハダニ



被害葉 ※

特徴

- ◆梅雨明け後に発生が多くなる。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ダニエモンフロアブル、コロマイト水和剤などを散布する。
- ◆薬剤を散布する場合は、葉裏にも薬液がかかるように散布する。

果樹類全般

果樹カメムシ類



クサギカメムシ

特徴

- ◆クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、チャバネアオカメムシなどが加害する。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、アディオン乳剤（かんきつ、もも、かきなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（かんきつ、もも、かきなど）などを散布する。

注）作物毎に登録内容が異なるのでラベル等で確認すること。

今年の大阪府でのカメムシ類の発生は全体的に平年よりやや少ないですが、園地により飛来量は大きく異なるので、園内を見回って発生を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を行ってください。

バラ科果樹（もも、すもも、うめ等のサクラ属）

クビアカツヤカミキリ 成虫の発生時期です！ 見つけたらその場で捕殺しましょう！！



成虫

幼虫



うどん状フラス



中華麺状フラス

特徴

- ◆成虫は体長4cm程度。前胸部は明赤色で、全体は光沢ある黒色。成虫は6～8月頃に出現。
- ◆幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。3月下旬から中華麺～うどん状のフラス(木くず等の混合物)を出す。
- ◆フラスが発生している穴には幼虫がいる可能性が高い。
- ◆若齢幼虫は中華麺状フラスを出す。この時期の防除が効果的。



被害枝



ネット被覆(もも)

防除のポイント

- ◆フラスが見られた樹は、ネットを巻き付けるなど成虫の拡散を防ぐ対策をとる。ネットは4mm目合いのものを、高さ2m程度まで2重に口をしっかりと巻く。ネットを樹幹に密着させると成虫がネットを噛み切ることがあるので、樹幹との間に余裕を持たせる。
- ◆ネット内での交尾・産卵を防ぐため、定期的にネット内を確認し、成虫を見つけしだいハンマーなどで撲殺する。
- ◆伐採後の切り株についても、ネットやビニルシート等で2重に覆い、成虫が拡散することを防ぐ。
- ◆フラスを見つけたら、千枚通しや針金等を穴に入れ、中のフラスをかき出してからロビンフード、ベニカカミキリムシエアゾールを注入するか、幼虫を突き刺して殺虫する。

5月7日付で防除情報「クビアカツヤカミキリに警戒！！」を発表しました。
 詳細はホームページを参照して下さい。 <http://www.jpnpn.ne.jp/osaka/>



野菜

7月前半の病害虫発生状況

品目	程度				
	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす		すすかび病			
			うどんこ病		
				アザミウマ類	

なす

すすかび病



防除のポイント

- ◆適度に換気を行い、湿度を下げる。
- ◆スコア顆粒水和剤、トリフミン乳剤、カンタスドライフロアブルなどを散布する。

うどんこ病



特徴

- ◆窒素過多で曇天が続くと発生する。
- ◆巡回調査では発生は見られなかったが、一部地域で多発との報告があった。

防除のポイント

- ◆パンチョTF顆粒水和剤、プロパティフロアブル、スコア顆粒水和剤などを散布する。

アザミウマ類



ミナキイロアザミウマ成虫※

特徴

- ◆苗からの持ち込みや、周囲からの飛び込みによる発生が多く見られている。

防除のポイント

- ◆発生を認めたら、ディアナSC、プレオフロアブル、モベントフロアブルなどを散布する。

野菜類・花き類全般

※適用作物は一部を抜粋して記載しています。
使用にあたっては、ラベルの登録内容を確認してください。

7月前半の病害虫発生状況

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類 花き類(全般)				アブラムシ類		
			コナジラミ類			
			ハスモンヨトウ			
					オオタバコガ	シロイチモジヨトウ
				コナガ		

アブラムシ類



アブラムシ類 ※

特徴

◆葉や茎等を吸汁し、生長をさまたげる。また排泄物にカビが発生し、すす病の原因となる。さらに、各種のウイルスを媒介し、作物によっては致命的な被害をもたらす。

防除のポイント

◆発生を認めたら、モスピラン顆粒水溶剤（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、しゅんぎく、アスパラガスなど）、アドマイヤー顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、豆類（未成熟）など）、コルト顆粒水和剤（なす、トマト、ミニトマト、花き類など）などを散布する。

コナジラミ類



タバココナジラミ ※

特徴

◆吸汁による白化のほか、トマトではTYLCV（トマト黄化葉巻ウイルス）を伝搬し、致命的な被害をもたらすこともある。

防除のポイント

◆トマト黄化葉巻病は感染すると株ごと除去する以外に対策がないので、コナジラミ類の防除を徹底する。
◆施設開口部に目合い0.4mmのネットを展張する。
◆ベストガード水溶剤（トマトなど）、スタークル（アルバリン）顆粒水溶剤（トマトなど）などを散布する。

ハスモンヨトウ



特徴

◆8月以降多く発生する。さといも、なす科野菜、あぶらな科野菜など多くの作物を加害する。

防除のポイント

◆発生を認めたら、アディオン乳剤（さといも、ずいき、オクラ、豆類（未成熟））、ディアナSC（かぼちゃ、なす、トマト、ミニトマトなど）、コテツフロアブル（ずいき、さといも、オクラ、花き類など）、プレバソンフロアブル5（さといも、なす、ピーマン、キャベツなど）などを散布する。

ヨトウムシ類については

「ヨトウムシ類の見分け方」を参照

http://www.jppn.ne.jp/osaka/color/yoto/yoto_l.pdf

シロイチモジヨトウ



特徴

- ◆ねぎでの発生が多いが、マメ類、なす科野菜、あぶらな科野菜、花き類など多くの作物を加害する。
- ◆フェロモントラップへの捕殺虫数が平年より多く推移している。

防除のポイント

◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（ねぎなど）、ディアナSC（ねぎ）、アフーム乳剤（ねぎ、しゅんぎく、花き類など）、プレオフロアブル（ねぎなど）などを散布する。

詳しくは6月10日発表の防除情報

「シロイチモジヨトウに注意！」を参照

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/H31nd/boujyoyouhou/R0106shiroiti.pdf>

オオタバコガ



特徴

◆果実や茎などに食入する。食害痕のまわりに虫糞が確認されることが多い。

防除のポイント

- ◆果実の食入孔の中にいるため薬剤がかかりにくく、さらに老齢幼虫には薬剤の効果が落ちるため、捕殺等も含めて早めに対応を行う。
- ◆発生を認めたら、プレオフロアブル（なす、トマト、ミニトマト、未成熟とうもろこし、花き類など）、アニキ乳剤（なす、トマト、ミニトマト、ピーマン、未成熟とうもろこし、きくなど）などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。
(<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

コナガ



成虫 ※



幼虫 ※

特徴

- ◆主にアブラナ科野菜を加害し、葉を薄皮だけ残して食害する。
- ◆一部地域でジアミド系殺虫剤に対する抵抗性が生じている。

防除のポイント

- ◆同じ系統の薬剤を連用しないよう注意する。
- ◆発生を認めたら、アクセルフロアブル（非結球アブラナ科葉菜類など）、ディアナSC（非結球アブラナ科葉菜類など）などを散布する。

きく

7月前半の病害虫発生状況

程度 品目	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく		黒斑病・褐斑病			白さび病
			アザミウマ類		

白さび病



特徴

◆施設では春先と初冬に、露地では初夏～梅雨時と秋期に発病が多い。

防除のポイント

- ◆ハウスでは換気を良好にし、湿度を下げる。
- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ジマンダイセンフロアブル等を散布し、予防に努める
- ◆発生を認めたらストロビーフロアブル、トリフミン乳剤を散布する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

黒斑病、褐斑病



黒斑病*

特徴

◆雨滴によって感染が拡大するので、降雨前にしっかり防除する。

防除のポイント

- ◆被害葉は取り除き、ほ場外に持ち出して処分する。
- ◆ダコニール1000、ストロビーフロアブルなどを散布して予防する。

注) ストロビーフロアブルは高温多湿下では、薬害の恐れがあるので使用しない。他剤との混用は薬害が生じる恐れがあるので注意する。

アザミウマ類



ミカンキイロアザミウマ※

特徴

- ◆品種により被害の現れ方に差がある。
- ◆花卉にはミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマ等が発生し、葉には主にクロゲハナアザミウマ等が発生する。
- ◆ミカンキイロアザミウマはウイルス病（TSWV、CSNV）を媒介する。

防除のポイント

- ◆発生源となる周辺の除草を行う。
- ◆発生を認めたら、ディアナSC、アファーム乳剤などを散布する。

●病害虫防除グループホームページ「防除指針」を参照してください。

(<http://www.jpnp.ne.jp/osaka/>)

●農薬を使用する際は、必ずラベルの登録内容を確認してください。

※原図：(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所

*原図：大阪府園芸植物病害虫図鑑(大阪府植物防疫協会)